

自治労 労働相談

Tel 0120-768-068

(受付時間: 10:00~17:00)
(月曜日~金曜日、祝祭日を除く)Eメール
soudan@j-kanagawa.jp

専門スタッフが対応します



自治労神奈川

JICHIRO
KANAGAWA

発行/自治労神奈川県本部
住所/横浜市南区高根町1-3
地域労働文化会館3階
045-251-9711発行人/蓼沼 宏幸
編集人/中野 雅臣
1部/20円
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

連載 自治研センターリポート

神奈川自治研センター顧問・沖縄県政策参与・勁草塾代表理事 齋藤 勁

戦後80年と平和

一戦争の記憶が強く残る生活と職場一

1945年7月生まれなので80歳になりました。横浜空襲下、母の疎開先の西伊豆安良里で産湯に浸かりました。父親は私が生まれた翌年、当時市内に蔓延した伝染病に罹患し亡くなり、以来母子家庭でした。自宅近くに米軍のカマボコ兵舎があり(1960年頃迄)、近くの丘の麓に多く残っていた防空壕でよく遊びました。

戦時中、父親は、召集令状を受け甲府連隊に配属され、中国大陆に兵士として従軍しました。父の弟は戦死しています。後年、私が衆議院山梨1区から立候補した際(2012年)に、父親の思い出を街頭で話しました。公園の前で演説をした時に、一人の女性が「ここに甲府連隊があったのですよ」と教えてくれました。私は何かの縁を感じると共に「平和の使徒になります!」と答えたのを記憶しています。

蒔田中学校を卒業して、1961年に横浜市役所(南区役所課税課市民税係)に就職しました。若き自治労組合員の誕生です。働きながら横浜商業高校、神奈川大学と学ぶことが出来ました。高度経済成長期で全国の若者が都市へと集中した時代です。職場の宴会では、ごく普通に軍歌が歌われていました。戦時中、シベリアに抑留されていた先輩や、フィリピン沖で船が撃沈され漂流しやっと助けられた先輩など、身近に戦争の痛ましさを聞く日常でした。労働組合の青年部役員にと誘われたのは20歳代後半でした。

1963年、横浜市に飛鳥田一雄革新市長が誕生しました。飛鳥田市長は、直接民主主義を訴え、人口急増対応と1万人市民集会などの市民対話、さらに今日の横浜の骨格である6大事業(みなとみらい地区や港北ニュータウンなどの大規模な都市計画)に着手しました。私は、飛鳥田二期目再選の頃、横浜市労連の外郭団体である横浜市住

民運動連合事務局に派遣されました。ベトナム戦争反対の世論が大きくなっていた当時、横浜村雨橋で戦車搬入阻止(1972年)のための座り込みで、飛鳥田市長がマイクを持ち「ベトナム人民と共に闘おう」と力強く訴えられたのには勇気づけられました。ベトナム戦争末期の1974年に横浜市でアジア卓球大会が開催され、横浜市従中央執行委員として参加各国の対応で頑張られている組合員を激励したことも記憶に残ります。

その後、横浜市議会議員二期を経て、「とことん分権・とことん平和」をキャッチフレーズに参議院議員に挑戦(1995年)、参議院二期、衆議院一期を務めることになりました。現在は一般社団法人勁草塾代表理事、沖縄県政策参与などの活動をしていますが、子供だった頃の記憶、体験、職場での先輩の眼差しは、全て平和に繋がる私の財産です。